



で推進する、
ひとや地域のwell-beingに貢献する

文系DX人材の育成

デジタルの前に必要なのは、
ひとや街を思い、豊かさへの道を見つけること



Well beingとは経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康、社会の豊かさを含む概念です。

「文系DX人材」は、このwell beingの考え方に立ち、デジタル技術者と協力して

DX(デジタルトランスフォーメーション)を実践し、

人や地域の課題解決に主体的に取り組む人材です。

DXの主役はテクノロジーそのものではなく、人の悩みや社会の課題に寄り添い、

解決策をデザインできる人であり、そこには、

歴史や文化、心理、教育、社会の仕組みといった

「文系」の視点が不可欠なのです。

学生
インタビュー



地域が求める「文系DX人材」の育成

SPARCは、地域社会と大学との連携を通じて、地域活性化人材を育成する事業です。山口県では、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学が連携し「SPARC教育プログラム」を構築しています。特徴は、文系・理系の枠にとらわれない「STEAM人材育成系列」と、地域課題に挑む「DXによる地域課題解決PBL系列」の2つの柱。これらの学びを通じて、well beingの考え方を基盤にDXを実践できる「文系DX人材」を育成します。



「山口県の産業界が求める人材像」の3つの要素

SPARC教育プログラムは、「大学リーグやまぐち」が山口県内の企業等を調査して見出した大卒人材に期待するニーズを踏まえ、知識、能力、資質の3つの要素を備える人材を養成します。



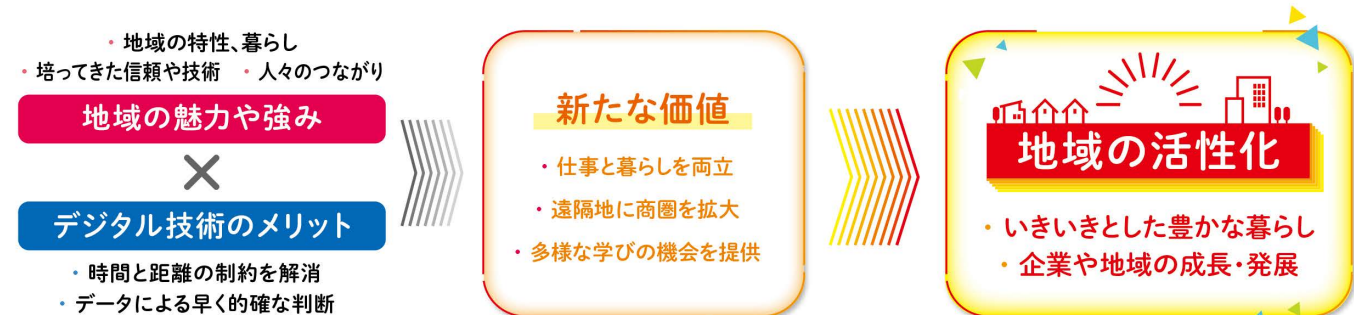
出典 大学リーグやまぐち (<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/176521.pdf>)

SPARC教育プログラムで身につける6つの力



「文系DX人材」が推進する「地域発DX」

「地域発DX」は、ここ山口が持つ「地域の魅力や強み」と「デジタル技術のメリット」を掛け合わせ、「新たな価値」を創出することで地域の活性化を目指すDXの取り組みです。山口の企業や自治体、教育機関だからこそ可能な「地域発DX」を構想し、実現する上で「文系DX人材」がその推進役となることが期待されます。



私たちの学びが、地域の力に！めざせ「地域発DX」

公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

学生インタビュー

Q 今どんなことを学んでいるか

新しい学科なので、今までにない学びが始まるのが楽しみです。現在は、県立大の全6学科混成の班を組み、班ごとに課題に取り組む、課題解決型の授業を受けています。一人ひとり専攻が違うので視点も違うし、専門知識も異なるので刺激があって面白いです。これから他大学の方々と一緒に学ばなかく、さらに違った視点を知ることができるのではと期待しています。

国際文化学部
情報社会学科
1年 奥田 将人

志望したきっかけは？

パソコンが好きで情報系に興味がありましたが、進路に迷っていました。高3の夏にSPARCシンポジウムに参加して新学科のことを知り、ここなら文系でも情報系をしっかり学べるし、国際関係なども学べることに魅力を感じて進学を決めました。

これからやりたいことは？

卒業後は山口県内のDX推進企業で、地域課題をデジタルで解決する事業に取り組んでみたいと考えています。デジタル化で便利になる反面、使いこなせずに困っている高齢者の方も多いので、そういう方々がより生活しやすい環境づくりを進めていきたいです。

これからやりたいことは？

まずは自分達で立ち上げた学環公認サークルの体制を整えて、地域ボランティアなど活動の幅を広げたいです。また、3大学で交流を深めながら、大学の枠を超えて情報交換をしたり、得意分野を活かしたりしながら、地域の課題解決にも実践的に取り組みたいと思います。

ひと・まち未来共創学環
1年 岸田 結愛

志望したきっかけは？

いろんな分野に興味があって進路を絞りきれなかったときに、先生から「ここなら分野融合で、様々なことを学びながらやりたいことを見つけられる」と紹介していただきました。新設されたばかりで前例がない分、自由に学べるという期待感がありました。

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

学生インタビュー

Q 今どんなことを学んでいるか

様々な分野の基礎科目に触れる中で、今まで当たり前だと思っていたことを違った視点で見る面白さを知りました。2年生からは社会系の専門プログラムを専攻して、今生活に不便を感じている人たちのために、仕組みを変えたり、サポートに必要なことを学びたいと考えています。学環には「自分たちで学環を作っていく」という意識の人が多く、心理学や社会学など興味のある分野がバラバラな人が集まっているので、いろんな意見が聞けて面白いです！

教育学部
2年 土島 空

志望したきっかけは？

入学時のオリエンテーションでSPARCの紹介があり、ICTを学べると知ったからです。パソコンには詳しくなかったのですが、将来学校で子どもたちに教えたり、授業の準備やデータ分析をするときに役立つ技術と知識を、大学で学びたいと思いました。

これからやりたいことは？

ICTをバランスよく活用して、小学生のうちに苦手意識をなくしていけるような授業がしたいです。例えばデジタル教材を使って、英語の発音を学んだり、算数は立体的な図形やグラフを使って分かりやすしたり。まずは興味を持ってもらい、好きになるきっかけづくりができれば嬉しいです。

山口学芸大学
Yamaguchi Gakugei University

学生インタビュー

Q 今どんなことを学んでいるか

もともと文系で、ICT(情報通信技術)や数学はあまり得意ではありませんでしたが、将来のことを考え、授業で改めて向き合うことで、苦手意識を解消できたと思います。少人数クラスで、前向きに勉強に取り組む友達の姿が常に目に入ることも、モチベーションアップにつながっています。また、歴史が好きなので、今世界で起きている問題も歴史と繋がっている部分が多いと知り、ニュースの見方も変わりました。

学びのフィールドは、 キャンパスから 地域へ

3大学で育む「文系DX」の教育は、キャンパスの中だけにとどまりません。
地域の企業・自治体との連携、高校生への教育プログラム、
そして社会人へのリカレント教育へ。
SPARC教育プログラムは、地域社会と深く交わりながら
「地域発DX」を目指して進化を続けています。

実践

地域と共に

3大学では教室での学びを
実際の課題の発見・解決に活かす実践的、能動的な学修の機会としてPBL(Project-Based Learning:課題解決型学習)を取り入れています。

地域の 企業や自治体との連携

地域の企業、自治体の皆様と
連携し、学生と共にDXや地域の
学びを深め、「地域発DX」を構
想します。連携いただく企業、自
治体は年々増加しており、令和7
年度は19社となりました。学生
が社会で通用する課題解決能
力を高める機会となっています。



合同発表会

毎年開催する3大学合
同発表会でPBLの学びの
成果を各大学の学生が
発表します。

進化

地域活性化に向けて

学生への教育を通して
蓄積してきた知的資産を
社会人の皆様にも提供
するための教育プログラ
ムを整備します。



プログラムの概要

DXをマネジメント視点で理解した上で、DXの事例や地域
課題を深く学ぶことで、地域活性化に向けた「地域発DX」を
実践する力と意欲を高めます。

開講スケジュール

令和8年度より、社会人を対象にDX基礎編、地域学
基礎編を開講します。以降、応用編、実践編を順次開講
予定です。

令和8年度開講

DX基礎編 地域学基礎編

DXや地域の
基礎を学びます

令和9年度以降開講

応用編

地域の事例をもとに
DXや地域の取り組み
施策を考えます

実践編

基礎編、応用編で
学んだことを
自社自組織で
活かしてみます

次世代

高校生の 探究心を加速させる

ジュニア リサーチセッション

中高生を対象とした研究活動
発表会を毎年開催しています。
令和5年度、6年度ともに200名
以上の参加がありました。

やまぐち SPARC先取り履修

高校生に大学教育に触れ
る機会を提供するため、令和
8年度からSPARC教育プロ
グラムの中の「データ科学と
社会」「地域文化論」などの
科目を提供します。

発信

地域全体で考える



令和5年5月のキックオフシン
ポジウムを皮切りに、毎年開催
しています。3大学の取り組み
や進捗状況を地域社会の皆様
にご理解いただき、大学との連
携を深める機会としています。

第1回(令和5年度) キックオフシンポジウム

第2回(令和6年度) 進もう。未来は私たちの心の中だ。

～ひとや地域の課題解決のために～

第3回(令和7年度) 地域発DX ～人材とDXで山口から新たな価値の創出を～



山口地域 SPARC事業
事業紹介動画
3大学 学生インタビュー動画

[補助事業期間] 令和4年度～令和9年度

[発行] 山口大学 総務企画部 地域連携課

〒753-8511 山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5630 / FAX:083-933-5029

2026年1月

山口大学

ひと・まち
未来共創学環



山口県立大学

国際文化学部
情報社会学科



山口学芸大学

文系DX教員
養成プログラム

